

都道府県名: 山梨県 団体名: 多摩川源流研究所

地域

多摩川源流研究所が活動の拠点としている小菅村は、多摩川の源流部に位置し、社会的、経済的、文化的に奥多摩町や青梅市、昭島市、福生市、府中市、狛江市、大田区、川崎市など多摩川流域との結びつきが強いのが大きな特徴です。

また、村内には明治34年に経営が始まった東京都水道水源林が存在し、清浄な流れと豊かな水を流域へ届け、流域住民の生活や暮らしを支えています。

経緯

- 平成13年 4月 多摩川源流研究所発足、同年より源流体験教室実施
- 平成14年 7月 多摩川源流協議会発足、多摩川源流研究所が事務局となる
- 平成17年11月 全国源流の郷協議会発足、小菅村とともに多摩川源流研究所が事務局となる
- 平成19年 5月 多摩川源流大学開学
- 平成21年11月 NPO法人多摩源流こすげ発足
- 平成26年11月 多摩川源流水守絵図完成

功績内容

多摩川源流研究所は、多摩川源流を活かし源流にこだわった村づくりを進めるため、平成13年の設立以来14年間に渡り、(1)源流資源の調査・研究とそのデータの蓄積、(2)会報「源流の四季」の発行など情報の発信、(3)交流人口の拡大をめざした上下流交流・連携の推進、(4)森林再生プロジェクト、(5)源流ネットワークの形成の5つを柱とする活動を展開してきました。

平成14年7月に発足した多摩川源流協議会(塩山市、小菅村、丹波山村、奥多摩町で構成)の事務局としても、上下流交流・連携事業の推進に中心的な役割を担っています。

平成19年5月には、東京農業大学による現代GPプロジェクト(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)によって多摩川源流大学が開学し全国的に注目を集めました。続いて小菅村が平成20年から2箇年に渡って取り組んだ「源流元気再生事業」(内閣府支援事業)を通して村づくりの新しい担い手であるNPO法人多摩源流こすげが誕生(平成21年11月)するなど、源流にこだわった村づくりが大きく進展し、多摩川源流地域における地域活性化、上下流交流に大きく貢献しています。



多摩川源流水守絵図作成



源流体験教室実施



多摩川源流絵図作成



首長サミット開催



多摩川源流大学開学